踊りに託す 熱き思い

14日の演舞場には将来の徳島を担う若者、児童たちが繰り出し、持てるエネルギーを発揮して元気いっぱいに踊った。地域医療の発展、阿波踊りの継承、障害者と健常者との相互理解など、それぞれの思いを踊りで表現した。

若さあふれる踊りを披露した鳴門高校連＝藍場浜演舞場

鳴門高校連

鳴門高校連の59人は、藍場浜演舞場に踊り込んだ。校歌も盛り込んだぞめきに合わせて、一糸乱れぬ正調の阿波踊りを披露。高校生とは思えない完成された乱舞に、観客から盛大な拍手がわき起こった。阿波踊り部の３年生16人は、この夜を最後に引退。酒井桜部長(18)は「大学に進学しても、社会人になっても踊り続けたい」と頼もしかった。

地医輝連

徳島の地域医療を盛り上げようと、徳島大学の医学部生らで今春結成した地医輝(ちいき)連。教授を含む約40人は、渦潮と眉山をあしらった法被に身を包み、藍場浜演舞場で「夢は地域の総合医。阿波の医療は任せとけ」と声をそろえた。県立三好病院の研修医河南真吾さん(27)は「地域医療を目指す学生が多くいることをアピールできた」と満足げだった。

地域医療の充実をアピールする地医輝連＝藍場浜演舞場

踊る！TOKUSHIMA KIDS連

鳴門教育大学付属特別支援学校と、徳島科学技術高校の生徒や徳島青年会議所のメンバーでつくる「踊る！ＴＯＫＵＳＨＩＭＡ　ＫＩＤＳ連」の90人は、南内町演舞場を踊り抜いた後、幸町で輪踊りを披露。紺色の法被をはためかせて、交流を深め合った。支援学校高等部１年の相原萌人(もえと)さん(15)は「皆で一緒に踊ることができて、本当に楽しい」。

輪踊りで元気いっぱいの踊りを見せる「踊る！ＴＯＫＵＳＨＩＭＡ　ＫＩＤＳ連」＝徳島市幸町１